

税金の金額ってどうやって決まるの？

税額の確定方法の代表的なものには、申告納税・源泉徴収があります。働き方などによって税額の決め方も違ってきます。

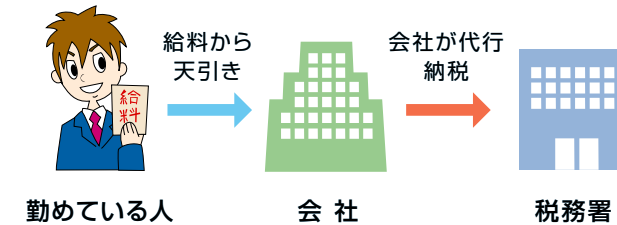
申告納税

事業の所得にかかる法人税や所得税などは原則として納税者が自ら計算して税額を確定し申告します。住民税は、この確定申告にもとづき、市区町村から通知された金額を本人が納めます。



源泉徴収

サラリーマンなどの所得税は、雇用主(会社)が税額を計算し、給料などから天引きして、本人に代わって納税します。このように徴収された税金は所得税の概算払いなので、年末調整や確定申告で精算します。住民税も同じように、市区町村から通知された金額を雇用主があらかじめ給料から差し引いて本人に代わって納税します。

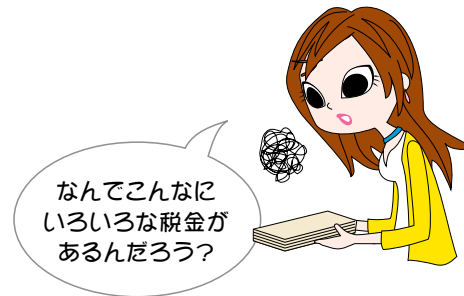


● 税金はどうやって払うの？

直接税 → 所得税や法人税、相続税、贈与税などは、税金を負担する人が直接、納めます。

間接税 → 消費税や酒税などは、税金を負担する人(消費者)と実際に納める人(お店)が違います。

(ただし、会社員の所得税は会社が源泉徴収)



● 税金はどこに払うの？

国税 (国) → 所得税、法人税、相続税、贈与税、酒税、印紙税、地方道路税 など

地方税 (地方自治体) → 住民税、固定資産税、自動車税、入湯税、不動産取得税、ゴルフ場利用税 など

各地方自治体の税収入は、人口や経済状況などによって差が生じるため、地域ごとの住民に対する公共サービスに差が出ないように国が地方交付税を支出して調整をしています。

● 税金はどんなものに払うの？

モノの消費やサービスの提供に対する課税 → 消費税、酒税、たばこ税、通行税、入湯税 など

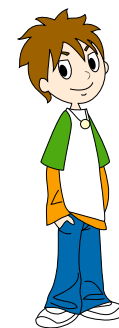
所得(利益)に対する課税 → 個人の所得税、会社の法人税 など

資産(財産)に対する課税 → 相続税、固定資産税、贈与税 など

家族と話そ!

身近なところで使われている税金について話してみよう。

税金は、払うの？ 取られるの？



あなたも買い物をすると金額の5%を消費税としておさめています。なかには、アルバイト代から所得税を引かれて損をしたような気分になった人もいるかもしれません。

税金を「取られた」と感じるか、「払った(納めた)」と感じるか、それによって税金の使いみちへの関心度も変わってきます。

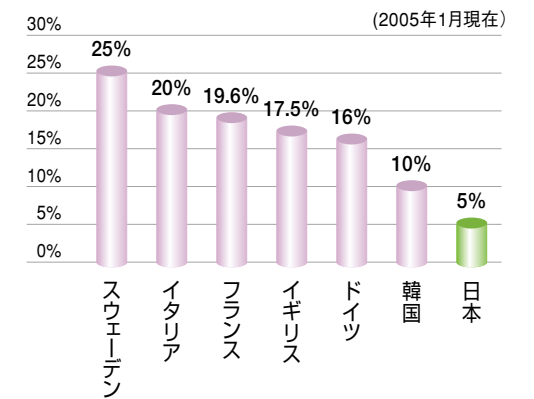
そもそも税金はなぜ必要なのか、税金の役割と現状がどうなっているのかみていきましょう。

考えてみよう

「税金をとられるのはイヤだ」といって、だれも税金を払わなかったらどうなると思いますか？

- ① 今と何も変わらない
- ② 今より暮らしやすくなる
- ③ 今より暮らしにくくなる
- ④ 税金をたくさん払ってないから興味がない

消費税(付加価値税)の標準税率の国際比較 (2005年1月現在)



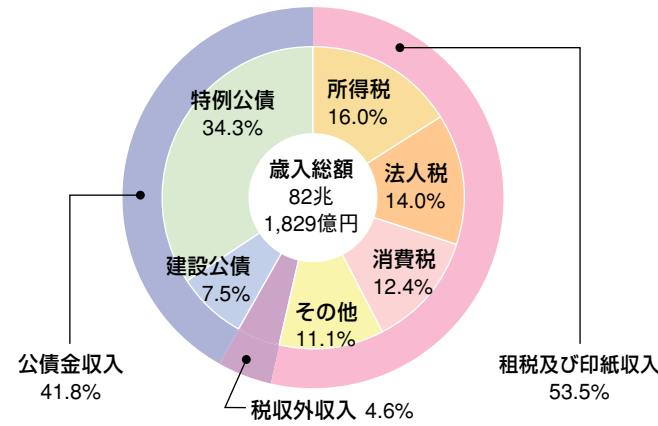
国税庁「暮らしの税情報」平成17年度版

※アメリカは州、郡、市により小売上税が課せられています。(例：ニューヨーク市 8.625%)

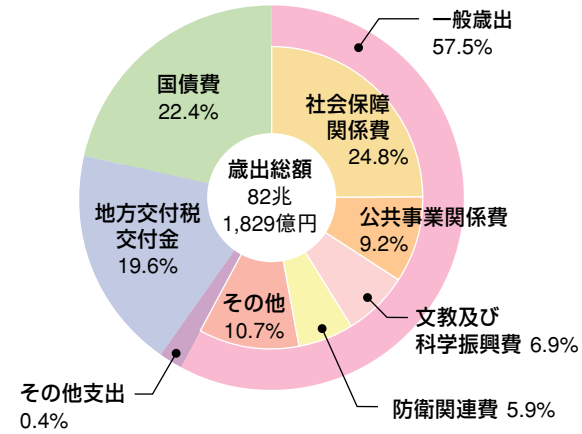
税金は暮らしの基盤をつくっています

毎日の生活にお金が必要なように、国や地方自治体を運営していくのにもお金はかかります。私たちは、日本という大きな家に暮らす家族のようなもので、税金として集められたお金は私たちの生活をよりよくするために使われる「生活費」(財源)なのです。

国の収入(一般会計歳入 平成17年当初予算)



国の支出(一般会計歳出 平成17年当初予算)



国の収入の約半分は国債の発行によるものです

国債は満期になれば、利息をつけて返さなければいけない国の借金です。国債の累積額は538兆円にも膨らんでしまっています(平成17年度末)。国民1人あたり約422万円の借金になります。そのツケはみなさんや将来世代が払わなければなりません。

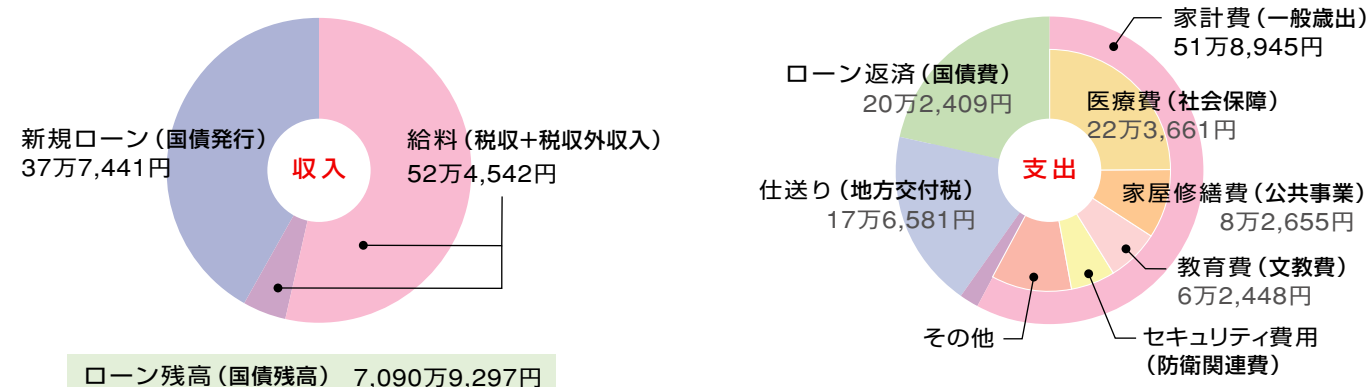
もし、誰も税金を払わなかったら、「道路や橋が整備されない」「警察や消防署が機能しない」など、日常生活のさまざまな面で困ることがたくさんできます。

国の収入と支出を1ヶ月の家計レベルに例えると…借金づけ!

国の歳入と歳出は、家計の収入と支出と同じです。金額が大きいとちょっと実感がわかないけど、家計レベルに換算すると**借金がいっぱい!**

一般家庭で考えたら「完全に破産状態。新たなローンなんてとんでもない!」と銀行には融資を断られてしまうような状態です。

※下のグラフは、2005年度予算の税収と税収外の合計47兆7929億円をサラリーマン世帯の平均年収629万円(2003年)に置き換えて、月ごとに当てはめたものです。



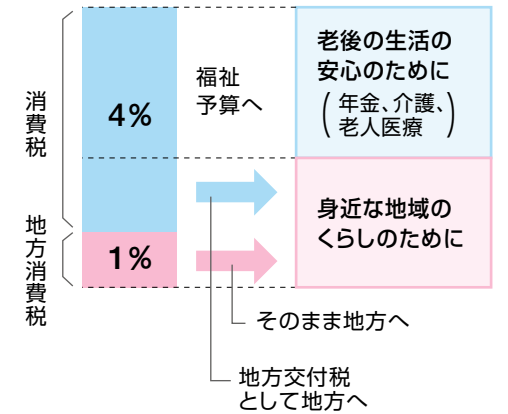
(朝日新聞2004年12月21日付記事より作成)

身近な税金について考えよう

みんなにとっても身近な税金である消費税、所得税の2つについて詳しく見てみましょう。

● 消費税

高校生にも身近な税といえば消費税です。商品やサービスを購入したときにかかる税金で、所得税とは違い、消費者に広く公平に負担を求めるといった考え方です。みんなが払った消費税はいったいどのように使われているのでしょうか。



● 所得税

所得税は収入に対してかかる税です。高校生でもアルバイトで一定の収入を得ている場合には所得税を支払うことになります。所得税の税率は10%から最高37%までですが、所得が多くなるほど税率が高くなります(累進課税)。これは、所得の多い人ほど税金を負担する力があるためです。

ワーク

1ヶ月のおこづかいで買物したレシートを集め、消費税として支払った金額を計算してみよう。

ワークシート ⑨-1

ワーク

消費税率が5%から上昇すると、私たちの生活にどのような影響があると思いますか?

ワークシート ⑨-2

タックス・ペイヤーとして目覚めよう!

自分たちが出し合っている税金が「ムダ使いされていないか」「正しく使われているか」、タックス・ペイヤー(Tax=税金 Payer=払う人)として、関心を持ちましょう。

ムダとしか思えないような公共事業や、政治家の汚職などのニュースもよく耳にしますが、そのようなことを許さないためにも私たちが税金の使われ方を監視し、声をあげていく必要があります。



ワーク

タックス・ペイヤーとして、具体的にはどういったことをしたら良いと考えますか。自分がしてみようと思うことを3つ以上書き出してみよう。

ワークシート ⑨-3

ワーク

国の収入を増やすための手段として「国債を発行する」と「増税する」のとは、どのような点が大きく違うか、書き出してみよう。

ワークシート ⑨-4